

生涯学習活動を通して

【自分ががし、仲間さがし】

生涯学習が花盛りです。生涯学習は教育の改革原理としてスタートしたものです。つまり、安定した社会は知識や技術なども安定しているのです。それらを青少年期に学校で学んでおくことにより、生涯を通じて役立つこととなります。ところが、社会の変化にともない、知識や技術も変化するので新しい課題が次々と出現してきます。これらを生涯にわたって学んでいくことで、満足な日常生活や職業生活を送れるのです。そこで学校中心体系から生涯学習体系に移行させる生涯学習理念が編み出されたわけです。わが国でもこれを用いて教育体系や学校の改革が行われているのです。

一方、生涯学習体系への移行にともなって大人たちの学習活動が盛んになってきました。これは公民館活動やカルチャーセンター、あるいは同好会やグループ・サークルなどとして行われています。この種の学習活動の動機として目立つのが、「自分ががしと仲間さがし」であります。自分ががしは、俳句、手芸などに挑戦して隠れた自分の才能を見つけたし、花を咲かせようとしています。仲間さがしは、学習活動を通じて仲間を見つけたたり、その絆を深めようと考えています。

仲間が欲しいといっても、簡単にできるものではありません。仲間は共通の興味や関心、利害関係を核にして結ばれるものでゲームボール、書道、コーラスなど、共通の趣味などを核として仲間をつくっていくのです。これが仲間さがしの生涯学習を盛んにした要因であると思います。

では、なぜ、仲間さがしかといえ、通常の人間は仲間がいなければ生きていけないからです。住みよい社会は、支え合う仲間意識を共有する人がいて、ある時は慰めてくれたり、励ましてくれたり、時には考え方に同調し合い、一方では競い合い、更には自分が認められる存在感や、皆のために役立っているのだという役割感が満たされる関係が保たれている必要があります。

ところが合理性や利便性を追及する社会は、人間関係をギクシヤクさせてしまう側面があります。また、近所付き合いが煩わしい、親戚付き合いは面倒、人づき合いが億劫だ、という雰囲気広がれば住みよい社会ではなくなってしまう。それだけに、仲間を求めている生涯学習活動が盛んになってくるわけです。

生涯学習通信 生涯学習推進会議調査・啓発部会

のびのび いきいき 生涯学習



中高年の生きがいを考える 【自分の役割を見つけよう】

人生八十年時代を迎え、定年後の長い時間を豊かに過ごすためにも「生きがい」は重要な柱になるといわれています。しかし一方で、定年退職をきっかけに「生きがい」を見失う場合もあると思います。その多くは私生活を犠牲にして会社に尽くしてきた方々ばかりで、定年を迎えると、まず直面するのが役割喪失という問題です。何らかの役割を見つけることによって自分の存在を呼び起こし、自分の生きている意味を確かめられたとき、人は「生きがい」を感じるのではないのでしょうか。

必ずしも「生きがい」イコール役割ではありませんが、役割に置き換えることで自分なりの「生きがい」をとらえ、見いだしていくのも一つの方法だと思います。

定年後の生活では、地域との関わり方が大切だといわれます。地域社会の中で「自分に何ができるか」を考えたととき、ギブ&ギブくらいの精神で望むことも大切であり、会社人間からの発想の転換が何より必要だといわれます。

定年後の各人各様のオリジナルな人生を構築するためのポイントとして、「老後の自立」を自覚することがあげられます。これが何より大事な定年準備であり、「生きがい」の創出や地域生活の基盤となるのではないのでしょうか。自立した老後という自覚があれば、生活スタイルも変わり、「自分らしくある」という生き方に目が向いてくると思われます。会社から解放された自由な時間は、自分らしい生き方をきわめるチャンス

